

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立豊崎東小学校

令和 7 年 4 月

現状と課題

令和 3 年度「運営に関する計画」最終評価から、本校の現状と課題を以下のようにとらえた。

全教職員が平素より児童に寄り添う教育実践に努めてきた結果、学校が楽しいと感じており（児童アンケートで「学校へ来るのが、楽しい」の項目で 80% 以上が肯定的な回答）、いじめや不登校は少なく、安心・安全な教育活動に取り組むことができている。一方で、自尊感情の向上は十分とは言えず、本校の長年の課題となっている。

学力面においては、小学校学力経年調査の結果分析から、思考・判断・表現の項目では国語科のすべての領域で全国・大阪市平均を上回っているものの、算数科では全国・大阪市平均を下回る結果になっている。習熟度別学習で一定の成果が出ているものの、今後も授業改善をはじめとする様々な取り組みが必要である。基礎学力の定着に課題がある児童も多く、学年間の系統を意識した基礎学力向上の取り組みは重要である。

体力面においては、立ち幅跳びの記録の平均を、前年度の平均より 3 cm 以上向上させることができたが、2 学年で目標を達成できなかった。コロナ禍ではあるが、今後とも児童の運動能力、運動習慣を高める取り組みを進めていく必要がある。➡ **（中間見直しを受けて）コロナ禍は過ぎ去ったものの、その間の運動不足等からくる体力低下といった影響が、現在も大きく残っている。**

学習者用端末の活用に関しては、全学年で取り組んでいるが、取り組みの頻度は学級間・学年間でばらつきがみられることが課題としてあげられる。

中期目標 本年度は、中期目標の最終年度である。

【安全・安心な教育の推進】**・基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現**

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。

・基本的な方向 2 豊かな心の育成

- 令和 7 年度末の校内調査の「自分から、場面に応じたあいさつができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 令和 7 年度には全学年で外部講師を招聘するなど、年度ごとにキャリア教育の充実を図る。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**・基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上**

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50% 以上にする。
- 令和 7 年度小学校学力経年調査の平均正答率 7 割以下の児童を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 70% 以上にする。

・基本的な方向5 健やかな体の育成

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

・基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」に対して、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を80%以上にする。

・基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を80%以上にする。

・基本的な方向8 生涯学習の支援

- 児童アンケート「読書をすることが好きだ」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる

・基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

- 保護者アンケート「学校は、学校だよりや学年だより等を通して、学校や子どもの様子がわかる工夫をしている」「学校は、学習参観や学校行事等、保護者や地域の方が学校に行く機会を多く設けている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

本年度は令和4年度にたてた中期目標の最終到達年度であることを踏まえ、目標達成に向け、全教職員が一丸となって取り組みを進めていくことを一人ひとりが認識する。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- ・ 校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。

○ 基本的な方向2 豊かな心の育成

- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

○ 基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○ 基本的な方向6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕

○ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80% 以上にする。

○ 基本的な方向8 生涯学習の支援

- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。

○ 基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

- ・ 保護者アンケート「学校は、学校だよりや学年だより等を通して、学校や子どもの様子がわかる工夫をしている」「学校は、学習参観や学校行事等、保護者や地域の方が学校に行く機会を多く設けている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 ・ 校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 <p>○ 基本的な方向2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ及びいのちについて考える日」をはじめとして、「いじめを絶対に許さない」を共通認識のもと、児童が安心できる環境づくりを行う。 ・課題の大きい児童や情報の共有をすべき児童について、教職員が共通理解した上で対応できるような体制を整える。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、教育活動と関連付けて、各学級で「いじめや命」について、児童と共に考える場を設ける。（5月・10月・2月） ・学期に1回、児童理解研修会を実施する。 <p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスベースの学校改革に取り組み、様々な教育活動時においてポジティブ行動支援を行い、児童一人一人の自尊感情を向上させていく。 ・各教科・領域、学級活動や学校行事、異学年交流を通して、自己肯定感を育むための取り組み・実践を充実させていく。 ・学期に1回各学級や学年の活動で、自己肯定感が高まる取り組みを実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動、児童集会、学年の取り組みなどを含めた異学年交流を、月に2回以上実施する。 	

- ・校内調査において、「学校に来るのが楽しい。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・校内調査において、「自分にはよいところがある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・学期に1回、各学級や学年の自己肯定感を高めるための実践について、情報交流する機会を設け、資料として整理する。

取組内容③【基本的な方向 豊かな心の育成】

- ・家庭と連携した情報モラル教育や啓発を実施し、SNSによる人権侵害や依存症などの問題を防ぎ、健康な生活習慣が維持できるように体制を整える。

指標

- ・情報モラル関連の授業や出前授業、研修会などを実施する。学校ホームページや配布の手紙を通した家庭への啓発を、学期に1回以上実施する。
- ・校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組の進捗状況】について

最終評価への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
<p>○ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・ 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 <p>○ 基本的な方向5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、男女ともに前年度より1ポイント向上させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】 ・国語科において見通しをもって単元構成を行い、読む機会を増やして児童の意欲を高める。	
指標 ・学習内容と関連のある文章を月1回以上読み、多様な文章にふれる。 (低学年 絵本 中学年 図鑑 高学年 新聞 等) ・児童アンケート「読んでいて分からなくなったときは、もう一度読み直していますか。」の肯定的な回答率を87%以上にする。(昨年度87%)	
取組内容②【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】 ・算数科における授業形態の工夫を通して、基礎基本の学力の定着を図る。	
指標 ・各学級の実態に応じて、算数科の学習において多様な授業形態を学期に複数回取り入れる。(R6 算数科で3～6年生において習熟度・少人数指導実施済み) ・学習のつながりを意識し、導入の場面で、前時の復習を週3回以上行う。	
取組内容③【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】 ・授業の中で学級の友だちと話し合う活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする時間につくる。	

指標

- ・教科や活動の中で、ペアやグループ、学級全体など、様々な形態の話し合い活動を1日1回取り組む。
- ・児童アンケート「学級の友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。」の肯定的な回答率を82%以上にする。
(昨年度 80.2%)

取組内容④【基本的な方向 健やかな体の育成】

- ・児童の体力・運動能力向上に向けて、授業や休み時間に児童が運動意欲を高められる活動を実施する。

指標

- ・かけ足・なわとびなどの体力向上週間を設定する。
- ・自分の目標を明確にするために、がんばりカードを活用する。
- ・児童アンケート「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きだ。」の肯定的な回答率を80%以上にする。（本年度より指標に追加）

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組の進捗状況】について

最終評価への改善点

大阪市立豊崎東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。 ○ 基本的な方向8 生涯学習の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度の76.5%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を80%以上にする。 ○ 基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケート「学校は、学校だよりや学年だよりを通して、学校や学級の情報がわかるよう工夫している」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を前年度より増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用スキルチェックシートを用いることにより、各学年の指導事項を明確にし、系統立てた指導をすすめる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業日において、学習者用端末を毎日使用する。（第1学年のみ2学期以降になる） 	
<p>取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外勤務状況調査において月80時間を超える教職員をなくすため、会議や研修等を計画的に効率よく行うことができるよう、内容を精選していく。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に〔午後7時セット〕ゆとりの日〔午後6時セット厳守〕を、GW明けより実施する。 	

取組内容③【生涯学習の支援】

- ・児童がより身近に本に親しめるよう、読書活動を推奨する。また、学校図書館司書と連携したり大阪市の図書館を活用したりして、多くの本に出会う場を設定する。

指標

- ・学校図書館を利用する時間を、週1時間各学級に配当する。高学年には2冊貸し出しができるようにする。
- ・学校図書館貸出冊数と大阪市立の図書館貸出冊数（学級での年間貸出数）を合わせて、各学級で年間80冊以上にする。

取組内容④【家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・学年だよりの発行や迅速な学校ホームページ記事の掲載をし、保護者や地域の方が見たいであろう学校や児童の様子を発信する。
- ・ミマモルメを活用し、家庭との連携を深める。

指標

- ・各行事でホームページをアップする担当者を明確にし、できるだけ早く掲載することによって保護者アンケート「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等を通して、学校や子どもの様子がわかる工夫をしている」の肯定的な回答を90%以上にする（前年度は、87.3%）。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組の進捗状況】について

最終評価への改善点